

小田原史談

第101号

発行所 小田原史談会
小田原市南町2-3-21

(中野敬次郎氏執筆)

「後北条氏秘話」を

会報掲載するに当り 香川 政治 (載録)

四妻珠院逸事続き
信仰篤き女性

このように、幼年の頃から少女時代にかけて、悲運の中になみなみならぬ苦勞の日を送ったので、その影響で彼女は神仏信仰の非常に篤い女性となった。特に日蓮宗を信仰し、同宗のためにつくした業績は顕著で本遠寺の如きも彼女が生前に堂塔を再建したのであるここに二つ、彼女と日蓮宗の関係についての問題を記しておく。

一つは伊豆河津郷の谷津にある日蓮宗の長運山乗安寺の寺院建立逸事である。この寺院の建立者の日蓮上人という人は、もと京都に生まれ本満寺の日重の門人となり、慶長九年三十三歳

で身延本山第二十二世となつた高僧であつた。その頃日蓮宗と浄土宗との間に盛に宗教討論が行われたが、徳川將軍家は浄土宗であるので、浄土宗に加担して日蓮宗に圧迫を加えていた。日蓮上人のときも、彼が一日蓮宗を信仰し、同宗のためにつくした業績は顕著で、幕府の禁令にそむく者として、駿河感応寺に滞在中の日蓮を召捕り、慶長十四年五月十二日の夜、安倍川の河原で磔の刑に処せられることになった。この時お万の方は駿府城にいたが、彼女は二十二歳のときから日蓮の教をうけたので、師僧の危難に驚いて、これを救おうとして家康に懇訴したのが聞き入れられなかったの

で、死刑の行われる日、お万の方は白衣の死装束に着替え、二人の子の手を引いて家康の面前に出て、「若し上人が処刑されたら、私も二人の子をつれて靈山にお伴します」と決死の態度で懇願したので今は家康もあることを認めて、これをゆるしたのである。

この時伊豆の金山奉行であつた大久保長安が河津に近い繩地金山に諸国から集つた多数の夫人を使用して、お万の方の教化のために、お万の方に請うて、学徳一世に高い日蓮を繩地に召請して一寺を建立した。寺を長運山乗安寺と名付け、その後、繩地金山とつづぶしの際に、乗安寺は河

津郷の谷津の現在地に移つたのである。この話は、お万の方逸事としてこの限られた乗安寺縁起である。
女人成仏説に
強く惹かれる
今一つの話。お万の方が生まれ故郷の小田原谷津の日蓮宗妙光院と光秀山浄永寺があるが、この寺に所蔵する日蓮上人画像とお万の方との深い関係がある。こ寺に日蓮上人自筆画像といわれる有名な一幅がある。もちろん上人自筆のものではないが、室町時代初期のもので推定され、神奈川県重要文化財に指定されているが、絹本着色の密画で掛軸、一メートル十九センチ、横七十六センチあるこの画像がお万の方の目にふれたのは、どういふ動機であつたかがわからないが、元和年中に彼女の目にとまつて非常に珍重され、彼女が家康の装束の切地をもつて表装し軸の修理をした上に、黒漆塗の立派な二重の箱を寄進したものが現存している(目下鎌倉国宝館寄託中)彼女が何故にこの画像を珍重したかという

ことも伝えないが、ほぼ想像がつく。この画像の構図を見ると日蓮上人の脱法図で、上手が右手に私子を持ち、左手で説法している姿であるが上人の前の経机の上に九巻の経文が巻いて並んで置かれ、蛇身の竜が宝珠を捧げて、岩座上の蓮華をさした花瓶に巻きつきながら頭をもたげて上人の説法を聞いている図柄である。法華経の中の提婆達多品に説かれている龍女成仏の説法を描いたもので、昔から女性は解脱成仏ができないといわれていたが、日蓮上人は大いに女人成仏、女性解脱を説いた。この図の蛇身は女性を示しているもので、古くからこの絵は「日蓮と人蛇身解脱説図」と言われて伝えられてきた。

恐らくお万の方は、この女人成仏を解く日蓮上人説法図の異色ある構図に感激したものであろう。そこで篤くこの画を信仰し、鄭重なる修理を加えて永く保存する方法をとつたのである。また彼女はこの図の模写を数点作り、本遠寺その他に納めたりしく、浄永寺には本図と模写図、本遠寺他二、三寺に模写図が納められている。

お万の方は、また慶長九年に伊豆河津の林際寺に日蓮上人を遣わして養父蔭山氏広の盛大な三回忌供養を行い、松籙というところに五輪塔まで建てている。また林際寺の外祖父北条氏忠

大閑斎の墓碑も彼女が建てたのである。
外祖父を手厚く供養
前にも述べたように、お万の方の外祖父は、小田原北条氏康の五男で、北条氏政の弟にあたる、北条氏忠(氏隆、氏能ともいう)であつた。氏忠は北条氏全盛期には下野國の豪族佐野家を継いで佐野左衛門尉を名乗って、佐野城、小机城、川越城の三城主であつたが、天正十八年北条氏没落のとき、北条氏直の高野山追放のとき、従者三百人とともに氏直に従つて高野山に行きこれらの従者を統率して北条家の再興に力をつくしていたが、氏直の急死にあい家臣達も四散したので、悲愁の胸を抱いて、娘と孫娘の身を寄せている伊豆の蔭山氏に自らも身を寄せたのである。そして仏門に入つて大閑斎と名乗り、淋しく河津の地で世を去つた人であつた。

お万の方が林際寺に墓碑を作つたのは、この悲しき外祖父を弔つたのである。
先掲の「正本系図」にも示したように、お万の方には小田原で生まれた同腹の兄が三人あるが、長兄直連も、第三兄権三郎も早世し次兄為春が残つたが不運であつたので、お万の方は、この兄を引き立てて、徳川

家康の近侍の列に入れ、後には紀州徳川頼宣に仕えさせた。為春は正木の姓を改めて三浦家の旧姓にかえった。お万の方の庇護もあつたが、彼は相当の人物であつたらしく遂に二万石を食み、三浦長門為春と称して紀州家の家老職となつた。

お万の方という女性は絶世の美人でもあつたが、また氣立てのやさしい信仰のあつて、また至つて情の深い女であつたらしい。家康の愛情が特に深かつたのはこの辺にあるのだから。

ただ彼女之母(北条夫人)は悲運の人であつた。その正墓もどこにあるかわからない。

ただここに、神奈川県南足柄市雨坪というところに日蓮宗の弘行寺という寺院があつて、性殊院妙月理と謚号される墓があつて、天正十九年八月七日と記されて、寺ではお万の方の実母をここに葬つたと伝えてい

る。信疑の程は明かでない。ただ参考にするにとどめるのみである。

(一)勇将間宮豊前守

康俊の娘お久の方

徳川家康の側室の中にお久の方という美女があつたが、この人も、天正十八年(一五七〇)の小田原戦役のあおりを受けた女性の一入であつた。この女性が、箱根

山中城合戦で壮烈な戦死をとげた間宮豊前守康俊の娘であること、またかかる女性の存在したことも知らぬ人が多い。

お久の方の素性については、間宮家系図の伝本の数種に見えるが、間宮家の略家譜を書いて見ると、次のようになる。

私はこのお久の方がか徳川家康の晩年の愛妾であることとを知らず興味も調査をすすめていたが、その墓がどこにあるか久しくわからなかつた。ところが、或る年、静岡市の家康愛妾お万の方の事蹟を調査している最中に、東海道線静岡駅に程近いところにある浄土宗の寺院華陽院を訪ねたとき

境内墓地に墓石のある家康愛妾お久の方も小田原出身の女性だから申つてやつて下さい」と教えられて初めてお久の方の墓の存在を知つて驚いたのである。

おなじ日、やはり静岡市内の、日蓮宗蓮永寺を訪ねて同寺にある家康側室お万の方の墓にも久方振りにお参りして、お万の方のあたり庄する巨大な墓と、お久の方のいかにも淋しげな、小さい墓とを見くらべて、同じ將軍家康の愛妾であり、しかも小田原出身である二女性の墓が、なぜこんなに

差があるのだろうかと思つてくりした。そしてお久の方の薄命の生涯を思うと愁然とした。お久の方の出身は左系図の如く一言するが、間宮家について一言するが、間宮家はもと近江源氏の佐々木氏の一族で、子孫が伊豆田原郡間宮村に移り住んで間宮氏を称したのである

康俊の曾祖父新左エ門信冬(法号雄山)のとき初めて北条早雲に仕えて、早雲の伊豆、相模の平定に功績をあげ、祖父豊前守信頼(法号宗三)も早雲、氏綱に仕えて勇将として聞えしたが、父豊前守信元(法号光林)

を経て豊前守康俊に至つたのである。北条時代の間宮氏には康俊のとき「北条役帳」にも「間宮豊前守六百四十六貫五百五十九文」とあつて、一族の総知行は六百九十八貫百二十二文に達しており、代々北条家の総先手の侍大将として今の川崎市の堀内城、神奈川の青木城、杉田の笹下城などに封ぜられて、北条臣下中の東相模の雄であつた。

康俊は北条氏政、氏直に仕えて所々の戦で功績をあげたが、天正十八年小田原合戦のとき、箱根山中城の守備を命ぜられて、松田左

○間宮氏家譜

近江源氏
佐々木成頼
佐々木秀義
佐々木高綱

佐々木成頼十四代孫
間宮新左エ門信冬
豊前守信頼(信成)

豊前守監頼(信元、政綱)
兵庫守左エ門尉信次(信常) | 左エ門尉信忠

(旗本)
左エ門尉信盛 | 左エ門信繁 | 佐エ門信勝
左内(旗本)

豊前守康俊
若狭守綱信 | 忠佐エ門重信 | 新佐エ門直元
監物信俊 | 源十郎信丸

彦太郎
久子

造酒丞信高(旗本)

衛太夫直長の本丸の守りに対して、康俊は、間宮一族を率いて出城の岱崎曲輪を守つたが、三月二十九日の秀吉の山中城総攻撃の激戦のとき、大軍を向こう廻して勇戦激闘の末、一族郎党百十余人が一人残らず討死または割腹して果てたのである。この壮烈な戦の有様は「関八州古戦録」や「北条五代記」などに詳述されている。

康俊はこの時、七十三歳の老齢であつたが、奮戦の後に自刃して果てたのである。

お久の方は、この康俊の娘であるが、どういふ次第で徳川家康の側室になつたか不明であるが、このようにして一族の主なる人々が討死し、越えて七月の初めには主家北条氏も滅亡するに至つたのであるから、残つた間宮家の人々は、一時流転沈淪悲運の中に、徳川家康の漁色の手が彼女にのびてきたものであらう。

間宮氏の系図を見ると、他の女子については一切記してないのに、彼女だけは「お久」「久子」「ひさ」などという名で諸系図にみなその名を記載しているのである。

この系図から見ても想像されるように、この沈淪の淵に落ち入つた間宮家が、

後に二十数家にも分かれて徳川家の旗本、御家人として復興するのは、お久の方の存在が原動力になつたことは明かで、間宮氏におくお久の方の位置付けは重大なものであつた。

(二)山中城合戦の跡を
とむらうお久の方

間宮久子。それはよほどの美しい人であつたに違いない。

お久の方の墓のある静岡市の華陽院は浄土宗で、初め智源院と称していた。徳川家康が八歳から十九歳まで今川氏の人質となつていたときに、岡崎から家康の付添人として来ていた外祖母のお留の方が没したのでこの寺に葬つて、華陽院殿と謚名されたので、寺名も華陽院と改めたという由緒のある寺である。

境内にはもちろん華陽院(源応尼)の墓があり、また家康側室の一人であつた英勝院の五女である市姫の墓もあるが、この両女の墓は、五輪塔と宝篋印塔のすこぶる立派なもので、墓所も一廓をなして造られてい

る。だが普照院お久の方の墓は高さ六十センチ程の何等の装飾もほどこされな

い角柱型の墓石で、同等の墓地の一般の人の墓石の中

に交つて、建てられてあつた、私も指摘を受けて気付

いたぐらいで、華陽院や市姫のものに引きくらべて、いかにも哀れっぽく感ぜられた。

このお久の方は山中城で討死をした父豊前守康俊や一族の菩提を弔う一寺建立の切なる念願を早くから持っていた。

この念願の寺院が、箱根山中の山中城跡の三の丸跡にある現在の浄土宗の東月山宗閉寺である。

建立されたのは、間宮一族の討死した山中城合戦より三十年も後の元和年中であつた。

お久の方は徳川家康晩年の愛妾で家康が將軍職を隠居して大御所を称して駿府城にいた頃の寵愛の女性で彼女も駿府城にいたが、一寺建立の念願は、すでに家康にかしづいていた頃からその意志をあわれんで資金の一部を与えたと伝えられているし、また、もと信州善光寺に安置されてあつた仏像で、当時は家康が所蔵していた阿弥陀如来の像をお久の方の懇請によって与えたが、この如来像が後に宗閉寺の本尊となつたのである。

元和二年に大御所家康が没して、お久の方も剃髪したので、いよいよ念願の寺院の本格的な建築に入ったが、当時は箱根八里の沿線

に当たってはいるが、山中の不便なところであるので建築はかたどらず、遂に完成を見ないで、お久の方は元和三年(六二)二月、駿府城で家康の後を追うようにして世を去ってしまった。

そこで、お久の方の素志を全うせんと一族の間宮小五郎なる者が、彼女の意志の通り、僧侶を招じて元和六年(六八)に完成した寺名は間宮康俊の法名の普光院殿武月宗閉潔公大居士から取って宗閉寺と名付け開山は了和和尚とし開基を間宮小五郎、施主を間宮三郎兵衛正次としたのである

同寺の創立の由来を書いた寺記に

「康俊戦死の後、其の妻久子、徳川家康に仕う。因で家康より仏像その他の寄贈品ありき云」

と記してあつて、久子と康俊の妻として居るが、これは誤りであろう。康俊が戦死のとき年すでに七十三歳であるから、その妻の年齢も相当であろうし、その人が夫君の戦死後に、家康に寵愛をうけるとは考えられないから、久子は康俊の娘であつたと考えられる。

宗閉寺の位置は、山中城の三の丸跡で、合戦の激戦地跡に建つて居るが、建立当時は立派なもので、前記の徳川家康所持の阿弥陀如

来像を本尊としており、お久の方遺品も所蔵していたのであるが、天明二年(一七二二)の火災で寺が全焼してしまい、これらの品々が皆失われてしまった。再建の寺も小さく荒廢しているのは、如何にも残念なことである。しかし、宗閉寺の位置は最も激戦のあつた跡で今この寺を訪ねると寺の傍らに、ここで玉碎した豊前守間宮一族の墓を初めとして、山中城主で、本丸で討死した松田右兵衛太夫直長の墓、豊臣方の武將でこの戦に討死した一柳伊豆守直末の墓など、敵味方の知名の人々の墓が数多くあつてこの合戦がいかに激戦であつたかということが物語るている。

これらの墓碑には、建立の年月と建立者に、多少の前後はあるが、間宮一族のものが多い。豊前守康俊のものは

○北条氏直公暮下忠臣使 普光院殿

武月宗閉潔公大居士 間宮豊前守源康俊 七三歳とあつて、これとならんである三基の五輪塔は康俊の弟監物(円誓宗寛居士)と監物の嫡男源十郎(教誓宗円居士)と康俊の甥左エ門尉信重のものであつて皆お久の方が造立したものであつた。彼女からすれば

父と伯父と兄と従兄のものであり、彼女がどのような気持ちでこれらの墓を営んだのか。哀れが深い……。

お久の方は死に臨んで、遺体は父兄の墓の側に埋葬してくれと遺言したそうである。この附近を何回も調査をしたが、山中城跡には、彼女の墓石は遂に見つからなかつた。

天正十八年三月二十八日山中城攻防の激戦収まつて豊臣秀吉は伊豆野口から登つて、この戦跡に至つて戦死した臣下一柳伊豆守直末の武勲を称えて、そこに遺体を葬り大石を集めて一塚の地に填めた。

一方、北条方にては討死を思い留まつて城中を脱した玉繩城主北条左エ門太夫氏勝等が、日の暮れかかる頃引返し來つて、間宮氏の遺体を本丸に葬つた。葬り終つたとき、暮色せまり、雨は沛然と降り來たつて車軸を流さん許りであつたといふ。

(三)薄命の美女 お久の方の生涯

お久の方(普照院殿)の生涯を見ると、その死亡のときの年齢から逆算して見ると、誕生の年は元龜元年(一五五〇)で、彼女の父や兄や一族の人々が討死して、主家北条家も没落し、一家が一旦離散沈淪の状態に陥

入つた天正十八年(一五六〇)は丁度彼女が開花絶頂の二十歳であつた。彼女の誕生地は、小田原か、または父康俊の城主であつた青木城下の間宮家居城(横浜市鶴見区末吉町)であつたのか不明であるが当時北条氏の重臣の多くは関東覇者小田原の城下町内に居敷を構えて、家族がここに居住することが多いので、彼女も小田原城下に誕生した公算が大きい。

恐らく、北条氏滅亡、間宮家離散の大衝撃の直後にこの美女は誰かの手を通して徳川家康のもとに宮仕えせしめられたか、或は何かの機会家康の目にとまつて側室にされてしまつたかのものではあるかと思ふ。

多分、お久の方は余程の美女で、その上、気持のやさしい女であつたらう。亡父の豊前守康俊という人は「身を律すること電雷の如く厳格」だつたといわれ、教養と研鑽の積んだ古武士の風格があるので知られた人物であつたから、その家に育つた久子の容姿態度も想像するに難くない。教養の高い女性であつたが何故か家康晩年の寵愛を受けることになつて家康が大御所としての最後に住んだ駿府城につれてゆたれて住んでいるが、家康の好色

漁女は有名で、お久の方を含めて、名の知られている女性だけでも二妻十五妾にのぼつている。お久の方のこのうちどの位置にいたかは知らないが、何か彼女の生涯には哀愁がたゞよつていて、他の側室諸姉からくらべると、影が薄く、権勢もなかつたようである。

北条氏滅亡のとき間宮一族の受けた悲惨な運命が、彼女の一生涯に拭うことのできない影をおとしていたのであろうし、もう一つ、彼女が生涯に一人も子供を生まなかつたこと、そして長命を保つことが出来なかつたのが、彼女の存在を華かにするに至らなかつた原因であらう。

大御所家康が死んだ翌年の春早々元和三年(六二)二月十八日、彼女も駿府城内で世を去つたのであつた。年令は四十八歳であつたこの死も或は自害ではなかつたかと思はれるが、ある。

華陽院にある墓石に 普照院殿 光誓相宗薫大禪尼 元和三年二月十八日 と刻してある。

お久の方の遺言では、遺骨は父兄の側へ葬つてくれとあつたといふから、宗閉寺に葬られたのであろうし寺伝にもそうあるが、前述

のように山中城三の丸の宗
閑寺には、その墓が見当た
らぬので、寺の焼失のとき
墓も失われたのではないか
と思われる。

静岡市の浄土宗華陽院は
徳川家康と縁故の深い寺で
あることは前記の通りであ
るが、この寺にある彼女
の墓は、間宮一族によつて
建てられたもので、元和六
年に、彼女の素志にもつ
いて宗閑寺ができたとい
き、その創立者の間宮小五
郎の作ったものと思ふが、
華陽院が本葬か、宗閑院が
分骨か、或はその逆か、そ
の辺のところ明かでない。

ところが、ここに今の横
浜市鶴見区下末吉町字下台
四〇七番地、これは旧相模
国末吉村であるが、長谷山
宝泉寺という曹洞宗の寺院
があつて、これが、北条時
代に間宮氏が菩提寺として
保護を加えた寺であつた。

寺の由来は、間宮豊前守
康俊の曾祖父新左エ門信冬
(法号雄山)が川崎城の城
主であつたとき、その近く
に永正元年(一五〇四)に建立
して氏寺としたものである
その後衰えてしまつていた
ので、豊前の守康俊が、興
して一門の氏寺としたもの
で、康俊を中興開基として
いる。ここに間宮家代々の
遺牌がある。

○長谷院殿雄山宝泉大居士

(開祖信冬)
○普光院殿登宿宗覚大居士
(中興開基康俊)
○乘正院殿泰雲存康居士
(康俊弟監物)
○源樹院殿潔心春皎居士
(監物子源士郎)

そして、お久の方のもある
○普照院殿光智相宗薫大
禅尼(お久の方)同寺の古
文書によると、同寺にも権
現様(家康)の黒印とい
ものがあつて、この黒印に
よつて、寺領三十石を頂戴
した。

この黒印状は元和三年ま
で持っていたが、同年十一
月に諸堂が残らず燃失しそ
の後は寺領を十五石に削減
せられたと伝えられている。大
変意味慎重なる文書であつ
て徳川家康が特にこの寺に
黒印状して寺領を増してい
るのは、並のことではなく、
久の方の一族の菩提寺であ
るので、彼女の願いを入れ
たものによるのであろう。

お久の方の生涯は薄命で
あつた。しかし、一旦没落
した間宮氏の中から、後に
彼女の弟造酒丞信高(康俊
四男)が徳川家康に召し出
されて、千二百石の御家人
になり、また一族の信盛も
家康に仕えて千七百石の知
行地を得ている。これらは
勿論、お久の方が家康の寵
愛を受けていた結果で、彼
女の仲介によるものである

このは言ひまでもあるまい
これを初めとして、徳川
時代の初めに、間宮一族が
徳川の御家人になつてい
るもの実に二十八家及んで
いる。これは異数のことで
かくのごとく間宮一族が沈
淪から復興したのは言ひま
でもなく、お久の方の言ひ
がなければあり得ないこと
である。
それ故に、お久の方は「
薄命の美女」の生涯に終つ

千代国府考

古宮 万寿夫

千代の廃寺については、
多くの先学の研究が発表さ
れている。昭和三十三年に
行われた県市合同の発掘調
査の結果を知りたいと思つ
て、当時発掘の当事者であ
つた日大教授だつた軽部慈
恵氏にお話を伺おうと思つ
て、お訪ねした。既に故
人となつておられた。しか
し、小田原市教育委員会文
化財保護課の三津木国輝氏
のお話によると、同氏も当
時発掘の仕事に當つておら
れたのであるが、発掘調査
の結果についての合同検討
について、軽部教授と高名
な東大寺と国分寺の著者石
田茂作氏、及び当地方の郷

たが、間宮氏にとつては、
影の大なる力の女性であつ
たと言わなければならない
因にお久の方には一人の
姉があつたことが明らかで
天正十八年の悲劇の日の来
る以前に、間宮一族の豊前
山城守氏盛に嫁して、長九
郎元盛を生んでいるが、小
田原城落城後に、この女性
がどんな運命をたどつたか
はわからない。(つづく)

いる。千代廃寺を、相模国
分寺にあてる考えがあり、
相模国分寺古瓦が、奈良末
から平安初期の様相を示す
こともあわせて興味深い」
と記されてある。
千代台地の地点は、多く
の国分寺がそうである様に
相模の国で、海老名大住国
府本郷のどこよりも、当時
の都奈良に近い。又海老名
国分寺が法隆寺式で特別で
あるのに対し、他の国の国
分寺と同じ伽藍配置の東大
寺式である。相模の国府三
遷が四遷となり、その最も
古い第一の国府所在地に建
てられた国分寺とされるわ
けである。国府国分寺の地
域に必ず存在する条理制
の区劃が、千代の南方や西
方の水田地帯に指摘されて
いる。

海老名では、国分寺(僧
寺)と共に必ず共存すべ
き国分寺尼寺及び国府も、
其位置が確定されている。
郷土史家の故内田武雄氏
は其著作に於て、小田原市
高田部落をあげて、国府の
所在地と論じていられる。
又武雄氏の二男盛男氏は、
最近出版された「高田別掘
の郷土史」の中において、
別掘と国分尼寺の地と論じ
ていられ、何れも傾聴に値
するものがある。
しかし私は、浅学ではあ
るが本稿において千代東町

——下千代の地が国分寺尼
寺の地ではなかつたかとい
う強い疑をもつもので、以
下申述べ、御批判をいただ
き度いと思ふ。
小田原から下曾我行き
のバスに乗り、千代部落最後
の停留所、千代東町を下り
ると、そこに千代部落の鎮
守三島神社がある。最近
は住宅が一面に建てられて
しまったが、十数年前迄は
この神の前には、東西三、四
十米の巾で、南の方に真直
ぐ続く水田があつて、村を
東西に分けていた地形にな
つていた。この水田地帯の
東側一帯を下千代と呼んで
いる。小字名は東町となつ
ている。神社の南東東百
近い所に山武士塚がある。
山武士塚と刻んだ小さな石
碑が建っている。石碑には
明治四十年小泉栄次郎建之
と側に記してある。小泉栄
次郎氏は、もとの名主であ
つた。古老の言によると、
昔はここに尼寺があつた
とのこと。下千代杉山敏春
氏によると、この塚の辺は
もと宮地で面積は二反五畝
にも及ぶひろい土地であつ
たとのことである。山武士
塚のある畑の南側に東西走
ずる道があるが、この道路
より南に下千代の部落があ
つて、北は一面の畠であつ
た。
山武士塚のある畑から今

の道路を越しすぐ南側、二〇二番地富田勇氏のお話によると、父祖からの伝えで明治の末年頃迄には、この塚の所には、膨大な量の石が、積み重ねられていたが、これを整理して、石垣用にご利用したこと。そして其後に建てられたのがこの石塔であるとのことである。

昭和の初め、千代小学校に勤めていた私は、この家に家庭訪問をしたことがあった。北の入口から入っていった私は、屋敷の北側に東西方向に、身長より高い土壁が築かれていたのに驚いたことを覚えている。今見ると、高さは低くなったが、未だ土壁の形が残り、其土に竹や木が生えているこの家の東側の家にはないが、つづく東側の家には、この土壁の続きと思われれるものが残っている。又下千代側の東側中程に「大藪」と呼ばれている家がある。

千代二二六番地富田春夫氏宅であるが、これも昔の記憶によると、屋敷の東側に南北方向に高い土壁があり、其上が竹藪となっていた。これらのことを考えると、二〇二番地の富田勇氏宅の屋敷北側から東に延び二二六番地の屋敷の東側に南北走るものが連続していたことがわかる

又今回の歴訪でわかったが、杉山敏春氏の案内でこの大藪屋敷に続く東側の台の畠に沢山の五輪塔等の石が、二ヶ所に集められてあることである。

豪族の住居になったこともある土地のように思われる。案内していただいた杉山氏宅で、同氏採集の布目瓦、鎧瓦等を見せていただいた。同氏宅は、先の土壁で囲まれた区劃の中央に位置する一九三番地にあるが、裏の畑で採取したものであるとのことである。

更に問題になっているのは「南大門前中畑」という地名があることである。杉山敏春氏宅にある地籍図によるとこの地は千代円宗寺の東、元水田のあった辺だとのことである。

しかし何としても、問題なのは、山武士塚の所にあるのは、大量の石である。下千代にその昔、大きな建物があったとしか考えられない。しかもそこに尼寺があったとの言伝えがあり、ひろさ二反五畝の官地がそこにあったこと等から、国分寺尼寺の存在を考えせしめられるのである。

より矢作村辺に至る間、総べて府中筋と唱う。万治の検地帖にもしか記せり」とあり、又全書足柄下郡村里部図説の項にも

「郡の東方、中里村、矢作村、凡そ三十六ヶ村は府中筋と唱えり、万治の水帖にも此の名を載す」と書かれてある。

更に尊徳全集第十四巻を見ると、天保八年四月の石高についての記載ヶ所を見ると

「府中筋組合として、下新田村、中新田村、上新田村、別堀村、上大井村、下大井村、西大友村、東大友村、延清村、千代村、高田村、下堀村、中里村、矢作村、鴨宮村、永塚村の十六ヶ村が挙げられ、各村名の上に石高が記されている。明治二十二年町村制が施行され、以上の村のうち、西大友、東大友、永塚の七村が上府中村としてまとまり、矢作、中里、下堀、鴨宮、上新田、中新田、下新田の七村が下府中村として成立し、小田原市との合併まで続いたのである。残る二村のうち下大井は、上大井の他と昔我村を作ったが、下大井は小田原市へ、上大井は、大井町に合併して現在に至っている。吉川弘文館発行の藤岡謙

次郎氏著の「国府」を見ると、全国的には府中ないしは国府の名を冠した地名を拾い上げておられるが、全部で二十三ヶ所あり、全国々府の約三分の一に達していることである。武威の場合には府中市、相模の場合には中郡国府村及足柄下郡国府津町があげられている。府中だけで見ると、武威以外、備後、美濃、伊賀、丹後、安房、安芸、讃岐、和泉、若狭、能登、紀伊等の各国に存在している。

「一般に府中(フチュウ)の地名は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて国衙の所在地を称する様になったものであるが、フナカと読む例は他に見られないので、旧時の国府に關した地名とすることも出来よう」と述べられている。

千代橋の所を流れる酒匂堰は、慶長八年に建設せられたものであるが、延清部落の東を流れる菊川は、矢作部落の西を通り、酒匂橋のすぐ東を南流して海に入っている。この川は大井町山田に流を發し、大沢部落にて平野部に出、西流して酒匂堰に入っている。一旦中断され、又東大友小字鳥井戸の南端で、酒匂堰から分かれて南流し海に入るわけ

で、同じ菊川が中途で酒匂堰に切られてしまっているが、もとは連続していた古い流れである。東大友、永塚、千代各部落の西にひろがる水田は、多くの古老に聞いても、耕地整理の行われた伝承はない。整然とした土地区劃は千代、高田南方に続く水田地帯の条理制の敷かれた地と一連の土地と思われる。地籍図を見ると、条理制の西限はこの菊川であることがはっきりしている。

吉川弘文館発行の日本歴史地理総説古代編の中、東国部の説述者山田安彦氏の研究によると

「国分僧寺と国分尼寺を結ぶ直線上に国府も位置する」とある。

海老名の方を調べて見ると、三者が一直線上にあるのである。下千代に相模国分尼寺があるとすると、国府の位置は、今の千代小学校の校門の辺に当る。更に山田安彦氏は

「国府の近辺には、国分寺向寺の外、総社や八幡宮が鎮座する」と述べていらる。千代小学校の校庭中央の所に、八幡神社があったことは、千代村の古地図にも載っている。上府支所のある八二三番地其西の八二三番地の水田のところは八幡

畑の小字名がある。千代小学校の東隣に、千代保育園があるが、昔そこは小学校の農場であった所保育園の東側を流れる川は今関川といっているが、風土記稿によると多屋川と書かれ、上流保育園の辺は茶屋川と云ったと記されている。立木望隆氏によると茶屋川は庁屋川であったものが、茶屋川になったとされている。

この茶屋川の西岸一帯の地の小字名は古屋敷といわれ、千代部落の旧地で、徳川時代中期迄何軒かの家があった記録もある。

私は昔、千代小学校の教員で高等部生徒を受け持ち、農業科の実習に参加したことがあった。そして茶屋川の足洗場で、鍬を渡った時澄んだ水流の中から何枚かの布目瓦を拾いあげたのでした。又ある時は生徒が農場を耕していた処、畑の中から、高さ三十程位の見事な素焼の壺が出土したこともあった。

古屋敷の南の小字が高屋町であるが、今でも古老はここを「タカサンデン」とも呼んでいる。立木望隆氏によると「高屋」というのは、米を入れる倉庫のあった所だのである。海老名の場合には、条理の基準線が、国分僧寺の南

方五十米位の所を東西走し
ている。

千代の場合を調べて見る
と、千代の学校の門より、
南走する直線道路が矢作部
落の方迄続いている。昔は
千代小学校の校地の其中に
南北走する水路があり、人
々は此処のわきを道路とし
て往來をしていたものであ
る。この道路は、校門より
南走す道路に連り、更に北
に、永塚方面に走っている
が、小字名の区割が皆この
線から東西に走って、条理
の南北基準線だったことが
わかる。

一方東西の基準線を考え
て見ると、小田原下曾我線
のパスの通る千代橋より東
に延びた一線ではないかと
思われる。ですから、この
東に延びた線と、千代小学
校の校門から南下する線と
の交点が、条理の基準点で
はないかと思う。

千代には、大繩上、大繩
下という小字名がある。こ
の二小字の境界が、千代橋
から東行する道路である。
海老名の古地図によると、
矢倉沢街道、別名青山街道
が一大繩と云われ、条理基
準線になっていた。

国分寺二寺、国府の三つ
が一体的な国衙機関と見、
海老名の場合を参考にして
見ると、条理制の基準点を
少し北に寄った千代小学校

の校門付近一帯を国府の位
置と想定したのである。

東を流れる茶屋川は、昔
千代の北にあった小海の水
も、これに合流し、水量も
もつと多かつたことと思
う。最後に、郷土史家城所管
氏の御指摘によると、千代
の西方に「踊り宮」という
地名があり、バス道路の千

代は高田部落の西を流れ、南東
流して、国府津北の森戸に
於、余幾丘陵の不動山から
流れてくる湧沢の水と合流
親木橋の架す森戸川となっ
て海に入るのである。

国府津海岸の地帯は、関
東大震災時にも、かなりの
地盤隆起があったが、昔は
海岸隆起もつと北に寄って
いた。真養寺の縁起等によ
つても国府津の南方の唐沢
の松の辺には小船の出入り
が出来る湾入があったので
ある。

利用されたことと思われる
面が現在より若干上ること

なるので、水量も多く、
航行も便利ではなかったと
思う。多屋川も水量が多く
この川を利用して物資の運
搬もしたのではないかと考
えられたものである。

小田原水道事件 (足柄騷擾事件)追憶記

香川 政治

それは丁度今から四十六
年前(一九三〇)七月十四日未
明の出来事である。

静かな田園地帯に素朴な
農民により一大暴動が繰り
上げられたニュースは当時
の新聞紙上に一号活字の見
出しにより放火、公務執行
妨害、警察官暴行、住居破
壊等重大犯罪を犯かしたと
とが報道されたことを未だ
耳朶に残っておられると思
う?

何がこのような軽率妄動
的な行動を惹き起こさせた
原動力の概要を記してみよ
う。

見て、飯田岡でも試みてみ
ようと、人を千住にやり、
約二十メートルの鉄棒を求
め井戸師新助と言う者を伴
つて掃村自己の邸内に掘る
こと数日、深さ約二十七メ
ートルに及んで清水がコン
／＼と湧き出し、地上一メ
ートルにも噴き出した。
そこで各戸が相次いで掘
り、同村内より隣接村にも
及んだのでこの地を富水と
称した」と、このように、
この地域一帯は各戸に一個
の掘り抜き井戸を有し地上
一メートル以上にも噴き上
げ、水質良好、水温低く近
隣の羨望的となっていた

小田原町はこれに目をつ
け昭和七年十一月十六日町
会の議決を経て給水人口三
万五千人、工費七十九万円
の設計で起債ならびに水道
施設認可の申請をした。同
時に認可見越して水源地区
の用地交渉を開始した。同
町会の中にも反対するもの
が出て容易に進まなかった
越えて昭和八年三月十八日
小田原上水道は事業認可と
起債認可があったので活気
を呈し、飯田岡部落の水源
反対運動の鎮圧に努力した
が、部落民一部の強硬な反
対なお納まらなかったので
四月二十二日土地収用法で
了解を求めて下調査をした

これに對して足柄村では四
月二十六日村民大会を開き
或は反対のビラを貼布して
氣勢を挙げたので小田原警
察署は嚴重な警戒を行って
いた。

このような情勢のもとで
試験井戸の機が出来上り、
県土木出張所に依頼し六月
二十九日試験に着手したの
で、水源問題ますます紛糾
し、不穏な状況いよいよ
その度を加えた。

そして七月四日制服の
警官の警戒の中で地元民の
デモ敢行となり、小田原署
より警官の出動によって解
散するに至ったが、さらに
七月十二日足柄村議区長協
議会で見解の対立をした反
対派は十四日未明地元消防
組三百名暴動を起すに至
った。

せた。これは小田原町当局が現在のような民主的な行政処置を採らず封建主義的に強力な権力によって実行に移そうとしたのでこれに反発した農民は前後の事も弁えず一挙に怒り爆発し狂鬼化したのである。

魔の日？それは昭和八年(元三)七月十四日未明反對派の消防組(当時一戸一人に義務的に割当加入)及び隣接部落の消防組加担、試掘の井戸機を倒し番小屋に放火これに呼応して半鐘を乱打し飯田岡部落は教日前に新規購入したばかりのガソリンポンプを試運転代りに使用し賛成派の重立った人の家に放水機威力の強力さをまぎ／＼と現わし雨戸は飛び散り家の中は水浸し家人は辛うじて避難、これを中止させようとした駐在巡査は部落中央を流れる小川に投げ込まれその上乱暴狼藉し次々と三戸襲われ非情事態の急報に接し小田原警察署より大勢の警察官馳せつけ漸く納まった。

即日反対派の人達は次々と逮捕され厳重な取調を受け殆ど留置場入り、その中二十数名(重に消防組の役付の人)横浜刑務所に投獄されるという破目となり囚われの身となった。大半が一戸の戸長であった為留守宅は大変、反対派犠牲者の家々

に罪を免かれた人達は協力して農作業の援助をし留守家族を守った。裁判は一、二審共有罪、結局最終結審で懲役二年執行猶予三年から四年と云う有罪判決が下され尊い犠牲者を出すに至った。

以上述べたような騒動を起こさせたのは誰かを追究したくなる。併し史料編によれば騒擾事件後円満解決と記されているが、その時点では万事休すで泣き寝入りの状態であったと思う。

騒擾事件後の飯田岡部落はどうであったか事件前イヤ小田原町より白羽の矢が飛んで来る前までは当時の部落戸数は六十戸、実に互助精神の旺盛な平和そのままであった。

このような環境下にあればこそ近隣部落に先がけ消防器具も近代化を計り前記のようなカソリンポンプを購入するとか手前味噌になるが富水地区では先達国のような存在であった。それがこのような非常識な事件を起こし恥ずかしい次第である。それはさておき、小田原町より水源地の申し入

れがあったより今までの編やかな部落も一変して反対賛成の二派(反対五十二名賛成八名)に分裂互に疑心暗鬼の毎日であった。

事件発生後は日常生活の面で互に根深い反目があり切れず数年反目の日が続き賛成派の八名は村八部の取り扱いを受け賛成派の人達とは家族ぐるみ没交渉路上で顔を合せても横を向くという、親戚同士も敵のような冷戦が続いた。

犠牲者が出たという認識を新たにして戴き。昔から一つの事業を起すに必ず何人かの犠牲者を出さなければ事が成就しない。成田空港もよい例ではないだろうか!! (文献小田原市史料編)

百六年を迎えた吾が国鉄と 外国鉄道の四方山噺

額田喜代春

(二五) 都市を結ぶ鉄道 現代の鉄道が、はたして重要な役割りの一つは大都市から大都市に旅をする人々を運ぶことで、大都市に働く沢山の人口が集まり、国の政治、経済、文化などの重要な部分が集中している、大都市と大都市の間を働らく人びとが大変多いわけです。そこで、鉄道はこれらの人々を出来るだけ速く、そして快適に旅行が出来るような列車を発達させてきました。

(二六) 貨物輸送と鉄道 貨物輸送も鉄道のはたして大事な役割です。しかし、これまでの貨物列車は、途中の操車場で止まっている時間が多く、駅での積み込み、積みおろしに手間がかかるなど、不便な点

が多く、ために自動車との競争には不利であった。ために自動車に転嫁されたりまた、沿岸航路の船によって、運ばれる貨物も多く、ために、鉄道は自動車と船のはさみうちにあつて、苦しい経営をしてきました。

そこで、近頃は、貨物の取扱を、少数の駅にまとめ、目的の駅に直行するような列車をふやすほか、コンテナ輸送や、輸送量の多い貨物の種類をまとめて専用の貨車で直通輸送をするなど、貨物輸送の合理化に努力しておるのです。

現在、鉄道の貨物輸送で最も多い種類は、石灰石、セメント、石油の三品目です。コンテナとは、貨物があるきまった人物に入れて運ぶようにすると、駅での積みおろし、トラックへの積み替えに大変便利です。この入物のことをコンテナといひます。大都市と大都市の間には、コンテナの直通貨車ばかりを連結したフレイトライナーが運転され、貨物輸送は大変スピードアップされるようになりました。

例えは、石油、セメント、飼料、自動車等が多く運ばれています。また、貨物列車は非常に力があつて、例えば、貨物列車一本で約三十両けん引で、八トン積トラック約九十台分の貨物を運んでおります。

(二七) 観光と鉄道 レクリエーションやレジャーと鉄道との関係は、大変深いもので、特に大都市と有名な観光地との間に運転されている、デラックスなロマンスカーは、代表的な観光列車といえましょう。どんなにすばらしい場所でも、交通が不便では、沢山人を運ぶことは出来ません。

ですから、交通を便利にするることによって、観光地が発達し、交通機関もそれによって、運賃収入をふやすことが出来、そのため、昔から有名な観光地は、必ず鉄道と結びついて発達してきました。

例えば、新宿副都心と箱根を結ぶ小田急のロマンスカーのようなものです。また日本では、団体の観光旅行が多く、修学旅行や、会社の慰安旅行、宗教団体の参拝旅行等、団体を運ぶのに、多く団体専用列車が運転されております。

それから、団体旅行をする

ます。

それから、団体旅行をする

時、くつろいだ気持で旅を楽しんでからおうと考えて作られたのがお座敷列車で畳の敷いてある、日本独特の団体専用列車です。

(三) 地域開発と鉄道
大都市の郊外に大きな住宅団地が出来ると、そこから通勤する人びとを運ぶ鉄道が必要になるので、大きな工業地帯では、そのための原料や、製品を運ぶ鉄道が必要になります。

例へば、東京の多摩ニュータウン、大阪の千里ニュータウンのように、いずれも鉄道から遠く離れた交通の不便な所に大きな団地が出来たため、新しく鉄道が敷設されて、都心と結ばれたよい例です。

(三三) 鉄道と環境
鉄道の便利なもの、人々の毎日の生活にはなくてはならないものになっていいますが、鉄道の沿線に住んでいる人々の環境を悪くさせていることは、数多くあります。

ためにこのような、鉄道をめぐる環境問題は、各地で大きく取りあげられるようになり、その解決策にも努力がはらわれております。昔は蒸気機関車の煙突から飛んだ火の粉で沿線火事をおこしたり、煤煙で木が枯れたりした事件が数多くありましたが、現代では、騒

音と振動が主役のようですね。日本のように狭い国土に、非常に多くの人々がひしめいて住んでいて、線路わきまで住宅がある地に、短い間隔でつぎつぎに列車が走る処では、この解決はなかなかむずかしいのが現状でしょうね。

特に最近のように、最高時速二百キロで走る新幹線の沿線では、騒音も振動もこれまでの列車よりはるかに大きく、鉄道をめぐる環境問題は、深刻な社会問題となつていますね、そこで騒音をふせぐには、騒音の発生そのものをへらすのが最もよい方法であることはいうまでもありません。レールの上を車輪がころがる音、その他、モーターから発する音、台車のきしむ音、車体と空気の間さつ音などがあり、これ等の音が重なつたのが騒音として私達の耳に入ってくるのです。

ですから、新幹線では、車両の走部分や道床などに、防音材、防しん材を使って騒音のでのるのを出来るだけ少なくするように努力していますが、高速で走るだけに、普通の鉄道よりも大きな騒音を発生させることは避けられません、そこで最近、防音壁なども次第に改良されて、沿線の環境を守る努力が続けられておりま

す。

防音壁というのは、鋼鉄のレールの上を鋼鉄の車輪がころがること、どうしてその間で音が発生し、新幹線のように列車の速度が速くなるほど音も大きくなります。

夏が近づく頃朝顔の季節になります。遠く奈良平安の時代に中国から薬用として我が国に渡来したものが初めてである。今現在朝顔の種子は局方薬で下剤に利用、生薬名は牽牛子。

現在に見る朝顔の觀賞用の栽培が盛んになるのは江戸時代である。品種改良によつて多種の品種が作られる今日に見る。又今日にも朝顔の愛好者達によつて品種改良の研究がされ又変異によつても種類がある、ともかく朝顔は江戸時代を通し今日まで夏の風物詩の一つであらう。

朝顔の原産地は確定的ではないらしいがヒマラヤ山脈の暖地かう以南ではないかと言ふ。朝顔は又遺伝の研究の材料にもなつて今日迄研究がつづけられてい

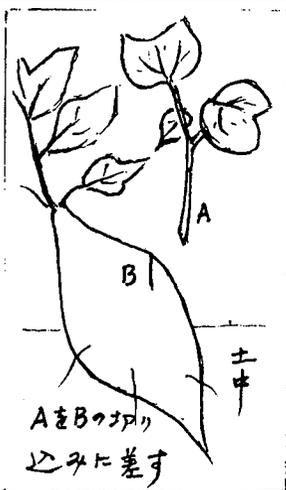
夏の風物詩「朝顔」

柏木次郎

騒音の大部分は、車両の走行部分から発するので、線路の両側に、やや高い防音壁を立てると、音は壁に反射して弱められ、線路の外側では騒音をかなり少なくすることができま

そして朝顔は遺伝学上千変万化の珍重植物である。朝顔の変異を變化朝顔と称し葉形や花形を楽しむ、此等は特殊遺伝子の組合わせによつて變化する、此の特殊遺伝子の法則は難しうしいが簡単に少しの變化を見る事が出来るのが我々園芸サークルが甘薯と朝顔の接木である。

此の研究を始めたのが三



年前で社内に於ける園芸倶楽部S.F園芸サークルのメンバーが本来ある甘薯と朝顔の接木により三年目朝顔の種子に葉形や花形並びに開花時間に変化が見られた、此の接木の本来は甘薯の茎と朝顔の茎を接するものが形であるが此の接着方法は初めての試験では難しうしく甘薯に約10cm位茎が伸びた時は茎外の場所にかミソリで表皮を1cm位切り込み第三子葉の出た朝顔を根を切り落し、甘薯の表皮にはさみその上にセロテープ類で押さえる。一週間位直射日光をさけて水をやりしていくと完全に着いた。此の場合は実験用の朝顔二・三本余分に用意しておく甘薯は一つ位でよい朝顔の種等は通常種時のと同じである。

夏の風物詩朝顔の変わった栽培を来年から実施して見ませんか。甘薯と朝顔の接

編集部より

着部分は一寸難しうしいがあとと簡単です。此の実験により子供達の教育材料になり、又葉形花形時間等の変化を楽しむのもよいでしょう。科学的、医学的、薬学的の研究は別として風物詩の変わった楽しみ方があると思う。簡単に書きましたが、詳細の知りたい方は御一報下さい。

伊勢原市岡崎六八四三
大谷庄一五
劇団大衆座内柏木次郎
(次回伊勢原の城予定)

昨年来市内の仏像仏画廻りを国府津下曾我地区、久野地区、片瀨地区、と三回県内、埼玉県、千葉県と三十三観音及其周辺の史跡を廻りました。其の周辺を廻った時には差程とも思わなかつたのですが他県に行き其の立派さに驚きました。

市内の仏像仏画廻りも足元の此の様な立派な物を知る事はほんとに大切な事だと思ひました。其れに引続き年内九月旧小田原市内の仏像仏画廻り、十一月に一泊で足利方面の三十三観音及其周辺の史跡廻りを計画して居りますので是非御参加下さる様御待ちして居ります。

杉崎